



ウサギの耳は、どうして長いながの

音をよくき聞くため

ウサギは、大きなおお体からだとか、するどいぶきばやつめなどの武器ぶきをもっていません。すばやくにげる、速いはや足あしをもっているだけです。そこで、こっそりしのびよってくる敵てきの、かすかな音おとをいち早くはやとらえるために、大きな耳みみをもっています。人間も、にぎやかなにんげん所ところで話し声はなごえがよく聞きこえないとき、手てのひらを耳みみの後ろうしに当てて、いっしょうけんめい声こえを聞ききとろうとします。これと同じように、ウサギの長い耳ながは、音おとを集めるアンテナの役目やくめをしているのです。

体からだの熱ねつを冷ひやす役目やくめもある

ウサギは、人間にんげんとちがって、汗あせをかくしくみがありません。人間は、暑いあつときや、運動うんどうして体からだが熱あつくなったとき、汗あせを出だし、汗あせがかわくとき体からだの熱ねつをうばって、体温たいおんが上がりすぎないようにしてくれます。ウサギの長い耳ながは、体温たいおんが高たかくなりすぎないようにする役目やくめもしています。

ウサギの耳みみの内側うちがわには、細こまい血管けっかんが網あみの目めのようにはりめぐらされています。敵てきに追おわねてにげまわるとき、耳みみを立てて走り、耳みみの血管けっかんにあたる風かぜで血ちを冷ひやし、体温たいおんが上がるのを防ふせいでいます。(監修・今泉 忠明)

